

取引先企業の課題解説で、決や夢の実現を後押しし、地域経済活性化に貢献する——。金融機関の役割の本質だ。「顧客と遠くなつた」との指摘もあるが、取引先や地域のために困難に挑むバンカーは全国にいる。

「夢に協力したい」と動きだしたもの、行政との交渉など多くの困難が待っていた。最難関は行内審査。融資の返済原資が通行料金のみである点がネックに。年間100万円人が訪れるとの見立て

A medium shot of a man with short dark hair, wearing a tan bucket-style cap and a bright blue zip-up jacket over a light-colored shirt. He is standing on a white walkway between two rows of lush green plants, likely in a greenhouse or garden center. He is looking slightly to his right with a neutral expression. The lighting is bright and even, typical of an indoor grow facility.

合Sia神奈川。団地整備のため08年に県などから中小企業高度化資金貸付金10.7億円を無利子で借り入れたが、条件だった組合16社の代表者個人による相互保証が精神的な累荷になっていた。



再開したビニールハウスで作業する熊谷社長と談笑する伊予銀の赤塚支店長（右、5月8日）

「顧客のため」困難に挑む

バンカー の誇り

2

300万人を超す国内

約6年後に完成した。

山積したが、同行の融資などを基に約2年で残債70億円を完済した。坂石氏は「長期の案件をつづけてこなすことが大

グを提案、支援した。

18年7月、未曾有の豪雨災害に見舞われた愛媛県南予地域。伊予銀行野村支店は赤塚昌弘支店長（47）の指揮の下、いち早く被災者の復旧支援に動いた。

ラン栽培のビニールハウスを流されたフーラルクマガイは、当面の生計を立てたためにトマト栽培を検討。同店は販売対策にもなるクラウドファンディング

る存在であることがわかれわれの誇りの源なんだ」と強く確信する。現在は地方創生戦略を担当する静岡銀の大橋氏も同意だが、「案件の大小ではない」とも付け加える。(住宅ローン案件にも新居を構える喜びがある)からだ。顧客一人一人の笑顔に全力を尽くす。それが何よりも重要なだと信じている。

日本金融通信社が記事利用を許諾しています

2019年5月17日号 1面